

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290300035		
法人名	(株)ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート稲毛園生 (2階)		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町815-1		
自己評価作成日	平成24年1月30日	評価結果市町村受理日	平成24年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座6-5-12 みゆきビルbizcube7F
訪問調査日	平成24年2月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お客様個々を把握し、信頼関係を築く積極的な施設を目指す。  
 お客様、ご家族様と共に協力をし、共に歩む施設を目指す。  
 自立支援の観点から、すぐに手を出すのではなく、「見守り」を優先する施設を目指す。  
 地域との繋がりを積極的に持つために、外部へ向けた社会参加を行う。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「家にいるのと変わらない生活を実現するために」をホームの目標として掲げ、職員が一丸となり日々取り組んでいる。今年度は職員の業務分担の明確化やホームの方向性を明確にして取り組むと共に、日々の支援においても、毎月外出計画を立て、様々な場所に外出できるよう支援し、利用者の生活の幅を広げている。また、地域との交流においても高校のマンダリンギター一部の来訪や保育園児との交流、さらに介護相談として近隣の方が現在困っている事を気軽に相談できる取り組みも開始された。今後に向けては、職員の介護技術の向上、地域へのアプローチを強めていく事に前向きに取り組む姿勢が確認できた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	具体的なスローガンを掲げてはいないが、職員研修、日々の申し送りなどで、地域密着型サービスの意義を職員全員に伝えています。	法人の社是、経営理念、心得を職員休憩室に掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。今年度、職員の役割を明確にすると共に、ホームの目標についても明確化を図った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候が悪くない限り、ほぼ毎日散歩に出かけています。出先での地域の方との交流を持てるよう、積極的にあいさつを行っています。近隣スーパーに出かけ、お買いものをしたり、レストランへ外食に出かけたりしています。	地域との交流については、高校のマンドリンギター部の方が来所し音楽の披露や近隣の保育園児が来所し、利用者と一緒に昔の遊びを楽しんでいる。また、近隣スーパーまでの買い物を通じ地域の方と交流が図れるよう取り組んでいる。	ホームでは今後、地域へのアプローチ強化を目指しており、今年度開始した介護相談をより充実させていき、こうした取り組みが地域貢献活動につながっていく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護相談承ります」というポスターを事業所に貼り出し、地域住民からの電話での介護相談、直接来訪相談に対応しています。お出かけのついでや、散歩のついでなどに来訪され、施設の説明を聞かれる方も増えてきています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内でお客様の総体的な現状の報告、個々のケース報告を行い、抱える問題点を提起し、構成員の皆様のご意見、ご要望をお伺いしています。ご提案いただいた事項については検討をし、改善が必要なものは改善をし、より良い施設運営に活かすようにしております。	運営推進会議は、2カ月に一度定期的に開催している。会議では、利用者状況、活動報告等のほか、家族からの質疑応答や日々のサービスに対する要望等も収集し、サービス向上につなげていく事ができるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上、行政の判断が必要な件については市高齢施設課、介護保険課に問い合わせをし、日々のケアでの質問などは担当のあんしんケアセンターへ問い合わせをするようにしております。	市の担当課との連携に関しては、運営上の疑問点など、行政の判断が必要な際には、連絡を入れ指示を仰ぐなど、日頃から相談に乗って頂き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待、身体拘束に関する研修を修了した者が、施設内研修により全てのスタッフへ研修を行っております。また日々のケアの中で、は基本的に行なってはいけない行為だという事を、職員全体に啓蒙しております。	身体拘束をしないケアの実践に向け、県主催の身体拘束廃止研修に職員が参加をし、参加した職員による伝達研修を通じ職員の意識を高めている。玄関に関しては、オートロックのタイプであるが、利用者から外出の要望が出た際には、開錠ができ、身体拘束につながる事例にはつながっていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6)と同じ		

グループホームガーデンコート稲毛園生(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、ご家族様との連携がよく取れており、日常生活自立支援事業をこちらで活用するケースはありません。また、成年後見制度については、ご入居前にその適用を受けられてお入居なさっている方がいらっしゃいます。今後、そのようなケースが発生した場合に即時対応ができるよう体制を整えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく、必ず書面でその内容等をお伝えし、ご質問を受ける機会を設け、ご理解とご納得をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	概ね2カ月に一回運営推進会議を行い、各方面からの意見をいただき、その議事録を全てのご家族、関係者に郵送をしています。それ以外にも各計画作成担当者からご家族様へは綿密に連絡を取るようし、ご意見をいただく体制を整えています。	事業所内外の苦情窓口に関しては、重要事項説明書に明記し、契約時家族に説明している。また、家族来訪時においては、直接意見等を聞き取るほか、定期的に法人本部からアンケート方式による顧客満足度調査を行い、意見や要望を表出できる場を提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議の実施、および日々の申し送りにて直接意見を聴取。また、現場社員が相談役となり、パートスタッフの意見を聴取するようにしております。	職員からの意見に関しては、毎月のヘルパー会議時に収集しているほか、日常的にも各ユニットの常勤職員を中心に現場職員の意見を吸い上げ、意見や要望の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行うことにより職員個人個人の意向を把握するようし、目標設定を共に行うようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後に導入研修を行い認知症と介護についての理念を学ぶ機会を持つようになっています。またその後もOJTを行いつつ、全体研修に加え、個別に介護技術研修を行い、職員の知識、技術向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っておりません。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に、ご本人様が安心して暮らすことができるようご本人様、ご家族様へ面談をし、直接ご意見を頂戴しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護相談の窓口として様々な相談を受けるとともに、当施設でのサービスを希望される段階ではないと思われる場合は、あんしんケアセンターなどにご相談をし、的確な引き継ぎを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフとお客様とが一緒に洗濯をしたり、調理をしたり、食器洗いをしたりと普通の生活を営んでおります。介護するされるということではなく、お互いに感謝の気持ちを持ち続けることのできる関係を築くよう努力しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居契約の際に、ご入居されても、ご本人様にとってご家族様の協力は必要不可欠なものであることを説明し、ご家族様が気軽に施設にお越しになれるよう、日々の様子をお伝えしたり、行事へのご参加をお願いしたりしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の連絡先ばかりではなく、教えていただける限り、ご本人様とご関係のある方の連絡先をお伺いするようしております。ご本人様が希望された場合は、お電話を使いご連絡を取っていただくようしております。気軽に親類・知人などが来訪できる雰囲気を作ることで外部との交流を図りやすくする様に努めております。	馴染みの人や場との関係継続の支援に向け、気軽に親類や友人の方が来訪できる雰囲気を作り、面会の要望がある場合には、家族の了解を得て面会を可能とし、これまでの関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の申し送りで、お客様個々の心身状況情報を共有するばかりではなく、ユニット内のお客様の人間関係を把握できるよう、日々の会話の内容などを報告するように指導しております。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とするお客様やご家族様には、ケアマネジャーより、定期的に電話にて連絡させて頂き、近況などをお伺いしております。ご退去になられた方のご家族様が、今でも現入居者様のためにパッチワークを教えに来てくださっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を優先し、不可能な場合はご家族にご意見を頂戴し、ご本人様にとって、一番良いと思われるケアプランを作成し、ご承諾をいただき、実際のケアに活用しております。	利用者の思いや意向については、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者一人ひとりのニーズや課題を抽出し、利用者本位のサービスが提供できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーがモニタリングシートを作成し、スタッフに情報提供することで情報共有をしています。また、アセスメントシートなどをスタッフが閲覧しやすい場所に配置し、情報の積極的な収集を促しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現場スタッフは日々の生活の中で、小さな変化に気付けるように関係を深めています。また、日々の申し送りや、管理者の定期的な現場への訪問で、左記項目の把握をするようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご利用者様、提携医療、ケアマネジャー、管理者、スタッフなどの意見を取り入れ、介護計画に反映して実際のケア展開を行なっております。	アセスメントで得た情報を基に、ケアプラン原案を作成し、原案を基に担当者会議を実施し職員、家族の意見を踏まえ、本プランを作成している。ケアプランの内容については毎月モニタリングを行い、目標に対する達成状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個人日誌、業務日誌の記録をし、内容を管理者がチェックしております。朝夕の申し送り時に、管理職、ケアマネジャーが立会い、スタッフとの情報共有を行なっており、介護計画の見直しが必要な情報は見落とさないようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃からご要望を連絡していただけるようお願いしており、出来る限りの要望に対応するようにしております。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	独自では、高等学校の学園祭へ参加をしたり、関係者の畑へいも掘り遠足に行ったりとレクリエーションにて実現しています。また、ケア上で疑問などがあつた場合には安心ケアセンターへ問い合わせをし、他資源をご紹介いただいたりしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ケアマネジャー及び計画作成担当者が提携医療機関と連携を図っております。施設の提携医療機関もご紹介いたしますが、ご本人がご希望される病院にかかっている方もいます。	利用者が適切な医療を受けられる体制としては、協力医療機関の主治医による往診が隔週1度実施される。主治医とは日頃から連携が図られており、体調変化時、緊急時において迅速に対応できる体制が築き、必要時に必要な医療を受けられる体制としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者経由で提携医療機関の看護職と連絡を取り、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の主治医、各病院のソーシャルワーカー(市内及び近隣の病院)との関係を密接にしています。お客様が入院の際には、入院先の医師・病棟看護師に直接情報提供を行い、安心して過せるような支援を行なっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に左記の説明を行っており、ご本人様の希望、ご家族様の希望を出来得る限りかなえたいため、提携医療等とも連携を密にしております。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、ホームとして取り組めることができる範囲を、入居前の見学時や事前面談時において、家族の方に説明し、できる限り早い段階で説明を行い、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応のフローチャートを作成し、まずは管理者、提携医療、ご家族の判断を確認する旨徹底しております。また、マニュアルを作成し、ファイリングして事務所に保管してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消防訓練は年度研修計画にて予定しております。避難経路を実践し、ケース検討をしたり、所轄消防署より水消火器を借り、実際に放射訓練をしたりしています。館内にはスプリンクラーが配備されており、外部機関、消防署による定期的な点検も受けております。地域住民の方々への働きかけは今後の課題とさせていただきます。	災害時に備え年2回(7月・2月)消防訓練を実施している。訓練では避難経路の確認、初期消火・利用者も交えての避難訓練など具体的に実施し、安全に避難できる方法を習得できるよう取り組んでいる。	

グループホームガーデンコート稲毛園生(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「お客様の尊厳を守る」声かけ、対応を心掛けるよう、日々スタッフと意志の共有をしております。また、各ご利用者様の歴史を知ることにより、尊敬の念を持ってもらえるよう、個人ファイルの熟読を勧めています。	利用者の尊厳の尊重及びプライバシーの確保に向けて、利用者の声かけに関しては、日頃から注意を払うと共に、毎日の申し送り時で確認し、利用者に対して不適切な対応にならないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけの介護ではなく、ご本人様に選択、決定していただけるような声掛けを行っています。また、自己決定が難しい方に関しては、ご家族様のご協力をたまわるなど、施設の意向を優先させることのないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様が入所される前に暮らしていた普通の暮らしをホーム内でも実現できるよう、「見守り」を重視し、「待つ」ことのできるケアを方針として打ち出しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容店など本人のご希望のお店がある場合は、そのお店に行く事ができるよう支援しております。また、特定のご希望のお店がない場合は、訪問理容を定期的に予約し、ご利用頂いております。ご自分で整容をされるかたはご自身の意志にお任せし、行為自体に障害が伴う方は、介助にて行なっております。あくまでも、ご本人の意向を優先することを徹底しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	性別に関係なく、お食事作り、後片付けなどの生活行為全般に参加をいただいております。	食事に関する一連の作業では、調理準備や食後の後片付けなど、利用者が主体的に取り組む事ができるよう支援している。食材は業者に発注しているが、利用者からの要望がある場合には、利用者と一緒に買い出しに出かけ、リクエストメニューをみんなで作るなどの取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期のお茶の時間以外にも、お客様の要望に応じて提供を行っております。水分制限のある方、とろみを利用する方などもあるため、ご利用者様全員の状態に合わせて提供し、一日の摂水量をチェックしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	左記のとおり実施しております。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の申し送り、排泄の状態報告をするようにしており、その状態に応じて、より自立の方向に向かえるようなプランを立て、徹底しております。また、その人個人の排泄パターンを把握することにより、的確な時間に、こちらからお声掛けをするようにしております。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては個別記録に記入し、職員間で共有している。排泄時は、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給(1日に1200~1500cc摂取)の目安を表示し、情報を共有し、実施しております。積極的な体を動かしていただけるように散歩への参加を促しております。定期的に乳酸菌飲料の提供を考えております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本ガイドラインは設定していますが、その日ごとにお客様にお伺いをし、ご希望に沿った形での入浴を楽しんで頂けるように心掛けています。	入浴に関しては、利用者の希望や要望を踏まえて入浴できる体制としている。入浴中は職員も介助に入り安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息や入眠パターンを把握し、快適な休息、睡眠をとっていただけるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理については管理者、ケアマネージャーにて管理を行っております。各ご利用者様の処方薬につきましては薬局からの説明書を事務所にファイリングをして閲覧できる場所に配置しております。誤薬防止の対応は、記入帳票等を活用し誤薬等が起こらないよう日々注意喚起しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の作業を職員と共にさせていただけるように働きかけております。絵が趣味だった方にぬりえをお勧めするなど、ご本人様が希望される際にはスタッフと共にレクリエーションの一環としても実施しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩へのご参加の声かけをし、お客様のご要望を聞き、外出する機会を増やしております。ご家族様のご希望に添い、外食をしながら近隣のレストランへ出かけたりしております。	近隣のスーパーまでの買い物やホーム周辺の散策のほか、毎月外出計画を立て、プラネタリウムや芋掘り、ポートタワー等に外出し、戸外活動の充実につなげている。	



グループホームガーデンコート稲毛園生(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理することが、その人の生活の重要な部分を占めている方に関しては、計画作成担当者がご本人様の状況に鑑み、場合によってはご自身で所持いただいております。その他自己管理が難しい方に関しては、お小遣いとして当施設にてお預かりをし、ご本人様が使いたいときには自由に使っていただけるケアを行なっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望通りに、事務所内電話をご使用いただけます。手紙もご要望があればお出しいただけます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にその季節に沿った飾り付けをしたり、お客様の描いたぬりえを掲示したり、行事の写真を貼ったりし、居ながらにして季節を感じさせてくれる空間演出をしております。また、日々の散歩の中で野に咲く花を摘み、食堂のテーブルに飾るなどをご利用者様自身がしてくださっています。	ホーム内はバリアフリー設計であるほか、廊下やトイレ、浴室には転倒の危険となるものは放置せず、安全性に配慮している。利用者が集うリビングには利用者が作成した作品を掲示し、居心地の良い空間となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置することにより、好きな方同士でくつろいでいただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、馴染みの物をご入居後も使っていただくようご家族様をお願いしております。その後も必要となるものに関しては、ご本人様、ご家族様に相談をさせていただいております。	居室内には、入居前から使い慣れた馴染みの物の持ち込みを可能とするほか、家具類の配置に関しても本人や家族の要望を優先し、居室内において落ち着いて生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置しており、完全バリアフリーになっております。ご利用者様の安全を確保しながら、残存機能を有効利用し、自立した生活が送れるようになっております。また、常に各個人の状態把握を行い、理解できること、出来ることを率先してしていただけるよう努めております。		